



## ユニファイドスポーツ競技会を成功させるためのガイドライン

トレーニングは競技のために行うもので、競技会は成功を測る尺度である。従って、コーチは、頻繁にある競技会、競技会の実施に求められる質、そしてその過程で果たすコーチの役割の重要性について認識する必要がある。

- 1) **コーチがユニファイドスポーツのチームに参加する前に、ユニファイドスポーツのトレーニングセッションを、全コーチを対象に実施する。**「意義のある参加」そして「チームメンバーの選出」が最も重要であることを強調する。コーチにしっかりと伝えることは、チームの全コーチに対しチームに参加する前にオリエンテーションを実施することにより、ユニファイドスポーツの理念と原則を十分理解してもらう必要があるという点である。これにより、全員がチームメイトであること、そしてトレーニングと競技会の両方に全力を挙げて参加することをしっかりと分かってもらうことである。
- 2) **コーチに競技固有のトレーニングを実施する。**コーチは自分が指導する競技の基礎的・基本的技能を習得しなければならない。コーチは全員がこれから指導する競技についてスペシャルオリンピックスのコーチングの認定を目指すべきである。アスリートやパートナーに最高の技術指導を行えれば、すべての関係者の意義のある参加の促進に大きな役割を果たすことになる。
- 3) **全参加者がスペシャルオリンピックスに登録していることを確認する。**スペシャルオリンピックスの全ルールはアスリートおよびパートナーに平等に適用されるが、以下の場合を例外とする：パートナーは「ユニファイドスポーツ・パートナー申請書」に記入しなければならない。申請書には申請者の連絡先、責任の免除、および背景情報などを記入する。パートナーには医療記録フォームは不要だが、地域によって必要とするプログラムもある。
- 4) **コーチには指導するユニファイドスポーツ・チームの競技能力レベルに関する情報の提出を要求する。**提出する情報には、チーム競技の全メンバーに関するスペシャルオリンピックス技能評価テストのスコア、そして個人競技の全メンバーに関するパフォーマンススコアが含まれる。また、チームの前歴に関する情報も含まれる（チーム一体で1年を超えてプログラムに参加している場合）。これらの情報をチームの登録者リストと競技能力評価フォームに記入し、ユニファイドスポーツ・チームの競技会参加申込書と共に提出する。
- 5) **コーチと選手団長に確約書に署名してもらうことを検討する。**次ページに確約書のフォーム例がある。プログラムリーダーは、自分たちが率いるチームが当ハンドブックに概要が記載されている基準に従って組織されたものであることを確約する。フォームには、チームがスペシャルオリンピックス・ユニファイドスポーツの理念を尊重しない場合は失格になることがある旨明記されている。
- 6) **競技会の前に、コーチが指導する競技のスポーツルール諮問委員会および審判に自分のチームのことを熟知してもらう。**これにより問題が発生した時やルール違反があった時に委員会が効果的に対応できるようになる。さらに、スポーツルール諮問委員会の物事の進め方、あるいはこうした問題や抗議への対応の仕方については、最初のコーチミーティングでヘッドコーチに丁寧に説明しなければならない。
- 7) **競技会場でディビジョニングを実施する。**スペシャルオリンピックスのルールでは、競技する相手チームに自チームと同程度の年齢構成および競技能力を要求している。チームをふさわしい競技能力のディビジョンに適切にグループ分けするには、すべての種目について始まる前にディビジョニングのための予選を行うことが重要である。審判がディビジョニング予選を観戦すれば、各チームの競技能力レベルを正確に評価し、各チームを同程度のレベルのディビジョンにグループ分けすることができる。ディビジョニング（予選）ではさまざまなチーム間で短い練習試合を行うため、正確な評価を行うことができる。